麻しん風しん混合予防接種に関する説明書

1．麻しん風しん混合ワクチンとは

お母さんから赤ちゃんへプレゼントした病気に対する抵抗力（免疫）は、百日咳や水痘（水ぼうそう）では生後３カ月までに、麻しん（はしか）やおたふくかぜでは生後８カ月までに自然に失われていきます。この時期を過ぎると赤ちゃん自身で免疫をつくって病気を予防する必要がでてきます。これに役立つのが予防接種です。

麻しん風しんの原因となるウイルスの毒性を弱めた生ワクチンで、これを接種することによってその病気にかかった場合と同じように抵抗力(免疫)ができます。

第１期と第２期の計２回の接種が必要です。

◆第１期：１歳以上２歳未満の間に１回接種をする。

◆第２期：５歳以上７歳未満で、小学校就学前の１年間に１回接種をする。

※麻しん及び風しんの予防接種を同時に行う場合は、麻しん風しん混合ワクチン（ＭＲ）を使用することとされています。
また、麻しんまたは風しんのいずれかにかかった場合にも、麻しん風しん混合ワクチン（ＭＲ）を使用することが可能とされています。

※ガンマグロブリン製剤の注射を受けたことがあるお子さんの接種時期についてはかかりつけ医と相談してください。

2．病気の説明

◆麻しん

麻しんウイルスの空気感染によって起こる病気です。感染力が強く、予防接種を受けないと多くの人がかかる病気です。発熱、せき、鼻水、目やに、発疹を主症状とします。最初 3～4 日間は 38 度前後の熱で、一時おさまりかけたかと思うとまた 39～40 度の高熱と発疹がでます。高熱は 3～4 日で解熱し、次第に発疹も消えますが、しばらく発疹のあとが残ります。はしかになると、100 人中 7～9 人が、気管支炎、肺炎、中耳炎を合併することがあります。また、麻しんにかかった人は数千人に１人の割合で命を落としています。

◆風しん

風しんウイルスの飛沫感染によって起こる病気です。潜伏期間は 2～3 週間で、軽いかぜ症状ではじまり、発疹、発熱、後頸部リンパ節腫脹などが主症状です。そのほか、眼球結膜の充血も見られます。合併症として、関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎などが報告されています。妊婦が妊娠早期にかかると、先天性風しん症候群と呼ばれる病気により心臓病、白内障、聴力障害などの障害を持った児が生まれる可能性が高くなります。

3．麻しん風しん混合ワクチンの副反応について

「健康状況調査報告」によると副反応の主なものは発熱と発疹です。

他の副反応として、注射部位の発赤・腫脹（はれ）、硬結（しこり）などの局所反応、じんましん、リンパ節腫脹、関節痛、けいれんなどがみられます。これまでの麻しんワクチン、風しんワクチンの副反応のデーターからアナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、脳炎、けいれんなどの副反応がまれに生じる可能性もあります。

（MR）

4. 健康被害救済制度

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく給付を受けることができます。

ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因によるものかの因果関係を専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に給付を受けることができます。

5. 予防接種を受ける前の注意事項

予防接種は体調の良いときに受けるのが原則です。日頃の体質、体調など健康状態を知っておくようにしましょう。

①受ける予定の予防接種の効果や副反応、健康被害救済制度について説明書をお読みいただき、理解した上で接種をお受けください。わからないことがある場合は接種を受ける前に質問しましょう。
②他のワクチンを接種した場合、その後の接種間隔を各予防接種説明書で確認してください。
③当日はお子さんの健康状態をよく観察し普段とかわりないことを確認しておいてください。体調が悪いと思ったら、かかりつけ医に相談の上、接種するかどうか判断するようにしましょう。
④予診票は接種をする医師への大切な情報ですので、責任を持って記入してください。
⑤母子健康手帳を必ずお持ちください。

6. 予防接種を受けた後の一般的注意事項

①接種後 30 分は急な副反応がみられることもありますので、接種会場でお子さんの様子を観察してください。
②微熱、接種局所の発赤・腫れ・しこり、発疹など認められることがありますが、通常の免疫反応であり、数日以内に自然に治るので心配の必要はありません。
接種局所のひどいはれ・高熱・ひきつけなどの強い副反応の症状がありましたら、医師の診察を受けてください。また、診察の結果につきましては下記の市町村担当課までご連絡ください。
③入浴は差し支えありませんが、注射した部分をこすらないようにしてください。
④接種当日は、はげしい運動は避けてください。
⑤ワクチン接種後、②のような副反応に注意し、また、他のワクチンを接種する場合は、注射生ワクチン（水痘、おたふくかぜ等）を接種する場合に限り、27 日以上の間隔をあける必要があります。

令和６年度版
茂原市長生郡医師会
長柄町　福祉課

長柄町　福祉課　子育て支援係　　TEL：35-2414　FAX：35-2459